



第48号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号

Tel: 078-341-5949

伝灯奉告法要ご親教発布

「念仏者の生き方」

5月31日、「第25代専如門主伝灯奉告法要」のご満座(最終)法要がつながりつとめられ、円成(円満成就)となりました。

昨年10月1日、専如ご門主のご親教(ご法話)として「念仏者の生き方」が発布されました。ご親教に題名がつけられることは今までになかったことです。浄土真宗のみ教えをいただく門徒や僧侶、すべての念仏者が、これからの時代をいかに生きていくべきか、この大切なご門主様のご教導をもとに、実践につとめていくことが必要です。



念仏者の生き方

仏教は今から約2500年前、釈尊(しやくそん)がさとりを開いて仏陀(ぶつだ)となられたことに始まります。わが国では、仏教はもともと仏法(ぶつぽう)と呼ばれていました。ここでのいう法とは、この世界と私たち人間のありのままの真実ということであり、これは時間と場所を超えた普遍的な真実です。そして、この真実を見抜き、目覚めた人を仏陀といひ、私たちに苦悩を超えて生きていく道を教えてくれるのが仏教です。

仏教では、この世界と私たちのありのままの姿を「諸行無常」と「縁起」という言葉で表します。「諸行無常」とは、この世界のすべての物事は一瞬もどきまることなく移り変わっているということであり、「縁起」とは、その一瞬ごとにすべての物事は、原因や条件が互いに関わりあつて存在しているという真実です。したがって、そのような世界のあり方の中には、固定した変化しない私というものは存在しません。

しかし、私たちはこのありのままの真実に気づかず、自分というものを固定した実体と考え、欲望の赴くままに自分にとつて損か得か、好きか嫌いかなど、常に自己中心の心で物事を捉えています。その結果、自分の思い通りにならないことで悩み苦しんだり、争いを起こしたりして、苦悩の人生から一歩たりとも自由になれないのです。このように真実に背いた自己中心性を仏教では無明煩惱(むみょうぼんのう)といい、この煩惱が私たちを迷いの世界に繋ぎ止める原因となるのです。なかでも代表的な煩惱は、むさぼり・いかり・おろかさの三つで、これを三毒の煩惱(さんどくぼんのう)といいます。

親鸞聖人(しんらんしょうにん)も煩惱を克服し、さとりを得るために比叡山(ひえいざん)で20年にわたりご修行に励まれました。しかし、どれほど修行に励もうとも、自らの力では断ち切れない煩惱の深さを自覚され、ついに比叡山を下り、法然聖人(ほうねんしょうにん)のお導きによつて阿弥陀如来(あみだにょらい)の救いはたらきに出遇われました。阿弥陀如来とは、悩み苦しむすべてのものをそのまま救い、さとりの世界へ導こうと願われ、その願ひ通りにはたらき続けてくださったという仏さまです。この願ひを、本願(ほんがん)といいます。我執(がしやく)、我欲(がよく)の世界に迷い込み、そこから抜け出せない私を、そのままの姿で救うとはたらき続けていくのださる阿弥陀如来のご本願ほど、有り難いお慈悲(おじひ)はありません。しかし、今ここでの救いの中にありません。けれども、そのお慈悲ひとすじにお任せできない、よろこべない私の愚かさ、煩惱の深さに悲嘆(ひたん)せざるをえません。

私たちは阿弥陀如来のご本願を聞かせていただくことで、自分本位にしか生きられない無明の存在であることに気づかされ、できる限り身を慎み(つつし)、言葉を慎んで、少しずつでも煩惱を克

服する生き方へとつくり変えられていくのです。それは例えば、自分自身のあり方としては、欲を少なくして足ることを知る「少欲知足」であり、他者に対しては、穏やかな顔と優しい言葉で接する「和顔愛語」という生き方です。たとえ、それらが仏さまの真似事といわれようと、ありのままの真実に教え導かれて、そのように志して生きる人間に育てられるのです。このことを親鸞聖人は門弟に宛てたお手紙で、「あなた方は」今、すべての人びとを救おうという阿弥陀如来のご本願のお心をお聞きし、愚かなる無明の酔いも次第にさめ、むさぼり・いかり・おろかさという二三の毒も少しずつ好まぬようになり、阿弥陀仏の薬をつねに好む身となっておられるのです」とお示しになられています。たいへん重いご教示です。

今日、世界にはテロや武力紛争、経済格差、地球温暖化、核物質の拡散、差別を含む人権の抑圧など、世界規模での人類の生存に関わる困難な問題が山積していますが、これらの原因の根本は、ありのままの真実に背いて

生きる私たちの無明煩惱にあります。

もちろん、私たちはこの命を終える瞬間まで、我欲に執られた煩惱具足の愚かな存在であり、仏さまのような執われない完全に清らかな行いはいけません。しかし、それでも仏法を依りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心になう生き方を目指し、精一杯努力させていただく人間になるのです。

国の内外、あらゆる人びとに阿弥陀如来の智慧と慈悲を正しく、わかりやすく伝え、そのお心になうよう私たち一人ひとりが行動することにより、自他ともに心豊かに生きていくことのできる社会の実現に努めたいと思います。世界の幸せのため、実践運動の推進を通し、ともに確かな歩みを進めてまいりましょう。

2016(平成28)年10月1日

浄土真宗本願寺派門主

大谷 光淳

伝灯奉告法要へ団体参拝 ～37年ぶりのご縁に～

5月1日、早朝より神戸各地からご参加いただいた門徒の方々とともに、神戸別院からバスで本願寺の伝灯奉告法要へ団体参拝を行いました。伝灯奉告法要は先代の即如前門様が1980年につとめられて以来、37年ぶりの貴重なご縁となりました。

本願寺に到着後は、国宝飛雲閣の見学や慶讃茶席の接待を体験しました。伝灯奉告法要期間中は、特に普段公開されていない飛雲閣の中を拝観でき、豊臣秀吉が愛した茶室などの貴重な部屋の数々を見学することができました。また、慶讃茶席では、ゆつたりとした空間の中で琴のしらべを聞きながら抹茶をいただきました。体験したご門徒の方は、「普段は忙しく過ぎてしがちですが、日本の伝統文化に触れて、今一度自分が立っている場所を再確認できたと思います」と述べられました。また一方で、龍谷ミュージアムでは特別展示「浄土真宗と本願寺の名宝Ⅱ」を見学し、本願寺の歴史を振り返りながら興味深い本願寺の宝物を見ることができました。



集合写真撮影
初めて参拝した方も

午後2時より「伝灯奉告法要」が始まりました。作法は、このたび制定された「奉讃伝灯作法」で、雅楽の音色とともに、本願寺にある阿弥陀堂と御影堂の両堂でおつとめが同時に行われました。神戸別院の杉本正信輪番も法要で結衆として内陣に出勤いたしました。

法要後は、「伝灯のつどい」が行われました。伝灯のつどいは、即如前門様と専如ご門主様の足跡をたどる映像に始まり、ご門主様を中心とした大谷宗家の方々がインタビュー形式で質問にお答えになり、ご長男の大谷敬様も手話を交えながらご挨拶されるなど、終始和やかな雰囲気が進められました。ご門徒の方々からも、「よりご門主様との距離を近く感じることができた」、「初めて来ましたが、実際に見ることでよかったです」と感想をいただきました。

永代経法要修行

―亡き方ともお浄土で

平成29年度永代経法要が、6月25日(日)に修行され、約50名の門信徒にご参拝いただきました。

永代経法要とは、門信徒の方々のご懇念によって、お寺が護持され、お念仏のみ教えが永代に受け継がれていくためにつとめられる法要です。

浄土真宗においては、教えの中心となる經典として『仏説無量寿経』、『仏説観無量寿経』、『仏説阿弥陀経』の3つがあり、総称して『浄土三部経』と呼ばれます。中でも、『仏説無量寿経』は、浄土真宗において最も大切にされている經典です。内容は、阿弥陀さまが、私たちをどのようにして救うのかを考え抜かれ、浄土を建立し南無阿弥陀仏のお念仏によって必ず浄土へ往生し仏にすることが誓われています。永代経法要では、この中でも『仏説無量寿経』による「無量寿経作法」が依用されました。

当日は、13時30分に喚鐘(法要が始まる合図の鐘)が鳴り、雅楽の奏でられる中、僧侶8名が出勤して始まりました。法要では、杉本正信輪番が表白(法要の趣旨を述べる告白文)において、

「み仏の限りないご恩を感謝申し上げます。このうえは浄土へ往生された人々のみ跡を慕いそのお導きを仰ぎながら命の限りご法義を聴聞し安養のお浄土で共に相まみえます」と、先にお浄土へ生まれていった方々を慕いつつも、私たちは命終わるまで阿弥陀さまのみ教えを聞き、お念仏を申す人生を送り、同じお浄土にてお会いしましょうと仏祖に申しあげられ、『仏説無量寿経』の中にある48願文や成就文が読経されました。

勤行後には、佐々木大観先生(実栗市西願寺)のご法話をいただきました。佐々木先生は、大きな声で勢いのある口調で話され、私たちへみ教えを伝えようとする熱意も伝わってくるような大変有難いご縁となりました。



質問を投げかける佐々木大観師

宗祖降誕会つとまる

春のモダンタウンフェスティバルも

宗祖降誕会とは、浄土真宗を開かれた親鸞聖人のご誕生をお祝いする法要です。私たちは、親鸞聖人のご誕生がなければ、真実のみ教えに遇うことができなかったことでしょう。聖人が九十年のご生涯をかけてお示しくださったお念仏のみ教えを違わず相続し、ようこそご誕生になられましたと喜び、ますます法味愛樂させていただく法要です。

5月28日(日)、神戸別院においても宗祖降誕会が勤められました。当日は180名を超えるご参拝をいただき、法要に引き続いての川本法綱先生(多可郡西教寺)のご法話では聖人が生涯を通してお示しくくださったお念仏のみ教えを、分かりやすくお取次ぎいただきました。



江戸時代から続く「小唄」を披露

奉仕活動今年も実施



今年も降誕会に先駆けて神戸別院仏教壮年会会員による親鸞聖人像お身めぐりが行われた

また、昨年の報恩講法要に続いての開催となった「春の花隈モダンタウンフェスティバル」も大いに賑わいました。

1階のホール前では、マリリンモンローも新婚旅行で訪れた花隈の歴史の紹介や写真展示、学生たちの花隈の魅力映像の紹介、菓子の販売等がありました。法要のご法話の後には、三味線の生演奏ライブが行われ、その美しい音色から、花隈に受け継がれてきた古き良き古典芸能の文化を味わうことができました。

また、3階総会所では兵庫大学茶道部によるお抹茶の接待が行われ、古来より伝わる「わび・さび」の精神文化を基本とした「おもてなし」の心を味わわせてさせていただきました。

法座案内

8月

1日～3日 朝7時から

暁天講座

1日目 講師…天野真隆師

(指保郡善導寺)

2日目 講師…八木顕宣師

(姫路市最勝寺)

3日目 講師…池本史朗師

(姫路市法性寺)

※3日とも法座後にお斎接待あり

5日 昼13時30分から

第一土曜仏教講座

講師…四夷法顕師

(西宮市信行寺)

15日 昼13時30分から

孟蘭盆会 講師…杉本正信

(神戸別院輪番)

9月

2日 昼13時30分から

第一土曜仏教講座

講師…内田正祥師

(三重県四日市市正覚寺)

7日 昼13時30分から

仏教婦人会定例法座

講師…四夷法顕師

(西宮市信行寺)

22日～24日 昼13時30分から

秋季彼岸会

講師…本多智道師

(滋賀県近江八幡市願證寺)

※23日には「おはぎ」の接待あり

本堂荘厳の

説明板設置

今年の6月より、3階本堂のエレベーター前に、本堂の御荘厳の説明板を設置いたしました。神戸別院の独



特なデザイン
の仏具な
どの由来を
改めて知る
ことができ
ます。ぜひ、
お参り下さ
い。

フェイスブック

ページ開設

行事や法座の様子を分かりやすくお伝えし、様々な告知をさせていただく媒体として、神戸別院のフェイスブックページを開設しました。

写真等も豊富に掲載しております。ぜひご覧ください。

神戸別院
facebook
QRコード



お盆のお参りのお知らせ

2017(平成29)年 お盆のお参り期間:

8月7日(月)～8月15日(火)

今年はお参りさせていただく期間を、拡大いたしました。
はがきにてご案内いたしますので、日程に都合が悪い場合は、ご連絡ください。

TEL 078-341-5949 (本願寺神戸別院・モダン寺)

お盆期間 ～本堂のお勤めのご案内～

本堂で別院門徒様向けのお盆のお参りを行います。自宅でのお盆の参りに都合がつかない方、これまでお寺にお参りする機会がなかった方、納骨所をお持ちの方は、ぜひ神戸別院のご縁を結びましょう。

期間 8月11日(火)～8月14日(金)の4日間 (※15日は孟蘭盆会を修行)
時間 11:00～、14:00～、15:30～の1日3回(20分程度)

※希望される方は、開始時間15分前を目途に3階本堂にお越しください。
(ご懇志の進納をお願い致します。事前申し込みは必要ありません。)